

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 乙第 2396 号

Salivary Chromogranin A as a Psychosomatic Stress Marker is suppressed in Laparoscopic Surgery compared with Open Surgery for Colon Cancer

(精神身体的ストレスマーカーであるクロモグラニン A は、大腸癌手術に対する腹腔鏡下手術で、開腹手術と比較して抑制される)

石山 隼 (いしやま しゅん)

博士 (医学)

#### 論文内容の要旨

開腹手術に対する腹腔鏡下手術の利点は、これまでの様々な研究で示されてきた。本研究では、周術期のストレスマーカーについて開腹手術と腹腔鏡下手術を比較し、腹腔鏡下手術の恩恵が示されるかを評価した。2008年5月から2011年3月の期間で、大腸癌に対し根治手術が行われた54人(腹腔鏡下手術群 32例, 開腹手術群 22例)を対象とし、周術期に末梢血と唾液検体を計5回採取し、精神身体的ストレスマーカーとされる唾液中クロモグラニン A(以下, CgA と略記)や参加ストレスマーカーの derivatives of reactive oxygen metabolite test(以下, d-ROMs test と略記), その他、インターロイキン 6 (以下, IL-6 と略記), ナチュラルキラー (以下, NK と略記)細胞活性, C 反応性蛋白(以下, CRP と略記)などを解析し、腹腔鏡下手術群と開腹手術群で比較検討した。腹腔鏡下手術群では術中出血量が有意に少なく、一方で手術時間は長い結果であった。腹腔鏡下手術群の唾液中 CgA, IL-6, CRP は開腹手術群に比べ優位に低かった。しかし, d-ROMs test では 2 群間に有意差は認めなかった。今回の研究では, IL-6, CRP など、これまでに報告されている項目に加え、唾液中 CgA で、大腸癌患者に対する腹腔鏡下手術の優位性が示された。唾液中 CgA は、精神身体的ストレスマーカーといわれているが、大腸癌患者の周術期に測定、検討された報告はない。本研究結果から、唾液中 CgA は周術期ストレスマーカーとして、興味深く、有望な検査と思われる。今後、この検査の意義をさらに明らかにする必要があると考えられた。